

令和 8 年用えだまめ病害虫防除基準

※えだまめと乾燥秘伝（大豆）では、農薬は同じでも使用方法、時期が異なる場合がある。発行：J A さ が え 西 村 山
※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。さがえ西村山野菜振興協議会

病害虫重点防除	時 期	は 種 前		開 花 前		開 花 7 日 後		開 花 15 ～ 20 日 後	
	殺 虫 剤	クルーザー FS30	} のいずれかを塗沫処理する。	スミチオン乳剤 } のいずれか オルトラン水和剤		トレボン乳剤 } のいずれか ヨーバルフロアブル		スタークル顆粒水溶剤 } のいずれか アグロスリン乳剤 [㊞]	
		クルーザー MAXX							
	殺 菌 剤			(Z ボルドー) (フェスティバルC 水和剤)		(バリダシン液剤 5) (ランマンフロアブル)		ゲッター水和剤	

【害虫防除】

作業	RAC コード	薬 剤 名	使 用 方 法				対 象 害 虫								注 意 事 項		
			倍 率 (薬用／水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	タネバエ	フタスジ メハムシ	アブラ ムシ類	カメムシ類	ハスモン ヨトウ	マメシ ンクイガ	ダイズサ タマバエ	ハダニ類		ネキリ ムシ類	
播 種 前	4 A 12 4	クルーザーMAXX	乾燥種子 1 kg当たり原液 8 ml 塗沫処理		播種前	1 回	●	●	●						●	●登録：ハト、キジバト ※クルーザーMAXX、クルーザーFS30の 他に薬剤を処理する際は、先にこれら を処理し、よく乾燥させてから使用する。 ※クルーザー剤の総使用回数は1回とする。	
	4 A	クルーザーFS30	乾燥種子 1 kg当たり原液 6 ml 塗沫処理		播種前		●	●	●						●		
	M3	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1 kg当たり原液20ml 塗沫処理		播種前	1 回	●									●登録：カラス、ハト ※チウラム剤処理済みの種子にはキヒゲン R-2フロアブルを使用しない。 ※ハトの慣れ、周囲のえさの有無により効果 にむらがあるので注意する。	
	1 B	ダイアジノン粒剤5	10a当たり 6 kg 作 付 前：全面土壌混和又は作条 土壌混和する。 作物生育中：作条処理して軽く覆土 する。		30日前	5回以内 ※生育期の処 理は4回以内	●								※●	●登録：コガネムシ類幼虫 ※ネキリムシ類防除は土壌表面散布	
は播 定種 植前 又は 播種 時又 は播 種時	1 A	バイデートL粒剤 [㊞]	30kg／10aを全面土壌混和又は 6 kg／10a 作条土壌混和		は種前又は 定植前	1 回										●登録：ダイズシストセンチュウ ※連作を避ける。 ※同じ薬剤の連用をしない。	
		ネマキック粒剤	20kg／10a 全面土壌混和		は種又は 定植前	1 回											
は播 種時	1 B	カルホス微粒剤F [㊞]	6 kg／10a 土壌表面散布土壌混和处理		播種時又は 定植時	1 回									●	※ネキリムシ類の産卵を抑えるため、播種前 から除草対策の徹底を図る。 ※タネバエの使用時期は「播種時」のみの登 録のため注意する。	
					播種時	1 回	●									●	※大豆での登録は、使用時期が播種時～本葉2葉期 である。
生 育 期	1 B	ネキリエースK	3 kg／10a 土壌表面株元処理		21日前	2回以内										●	●登録：ウコンノメイガ、シロイチモジマダ ラメイガ
		スミチオン乳剤	1,000倍	100～300 ℓ		4回以内			●	●		●	●				
		オルトラン水和剤	1,000倍	100～300 ℓ		3回以内			●		●						
	3 A	トレボン粉剤DL	4 kg／10a 散布		14日前	2回以内		●		●	●	●	●			●登録：シロイチモジマダラメイガ ※エトフェンプロックスを含む（トレボン） 総使用回数は2回以内	
		トレボン乳剤	1,000倍	100～300 ℓ				●		●	●	●	●			●登録：ウコンノメイガ、シロイチモジマダ ラメイガ	
		アグロスリン乳剤 [㊞]	2,000倍	100～300 ℓ			7日前	3回以内		●		●		●			【マメシンクイガ対策】 豆の肥大期に2～3回薬剤防除を行うとよい。 ※大豆では使用時期が収穫7日前までである。
	4 A	ダントツ水溶剤	2,000倍	100～300 ℓ	前 日	3回以内		●	●	●		●					※ジノテフランを含む（スタークル） 総使用回数は2回以内
		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	100～300 ℓ					●	●			●				
		スタークル粉剤DL	3,000倍	100～300 ℓ				●		●			●				
	21A	ダニトロフロアブル	1,000倍	150～300 ℓ	前 日	1 回								●		※大豆には登録がない。	
	28 15	ミネクトエクストラSC	10,000倍	100～300 ℓ		2回以内			●	●	●						
	28	ヨーバルフロアブル	5,000倍	100～300 ℓ		3回以内					●	●				●登録：ウコンノメイガ、コガネムシ類 ※大豆では使用時期は収穫7日前/使用回数は 2回以内	
	30	プロフレアSC	2,000倍	100～300 ℓ		3回以内		●			●	●	●			●登録：ウコンノメイガ	
	UN	ブレオフロアブル	1,000倍	100～300 ℓ		2回以内					●					※大豆では使用時期は収穫7日前まで	

【病害防除】

作業	RAC コード	薬 剤 名	使 用 方 法				対 象 病 害						注 意 事 項
			倍 率 (薬用／水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	紫斑病	茎疫病	菌核病	べと病	炭汚損症	葉焼病	
播 種 前	4 A 12 4	クルーザーMAXX	乾燥種子 1 kg当たり原液 8 ml 塗沫処理		播種前	1 回	●	●					●登録：黒根腐病
	M3	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1 kg当たり原液20ml 塗沫処理			1 回	●						
生 育 期	2	ロブラール水和剤	1,000倍	100～300 ℓ	30日前	3回以内			●				※大豆では使用時期は収穫21日前まで
	M1	Z ボルドー	500倍	100～300 ℓ	—	—				●			●登録：斑点細菌病 ※水稻（穂ばらみ期～出穂期）に葉害がでるので、飛散しないように注意する。
	40 M1	フェスティバルC水和剤	600倍	100～300 ℓ	前 日	3回以内		●		●		●	●登録：斑点細菌病 ※大豆では使用時期は収穫 7 日前
	11	アミスター20フロアブル	2,000倍	100～300 ℓ		3回以内				●			※大豆では使用時期は収穫 7 日前/使用回数は2回以内
	10 1	ゲッター水和剤	1,500倍	100～300 ℓ	7 日前	3回以内	●				●		※大豆では1,000倍/使用時期は収穫14日前
	U18	バリダシン液剤 5	500倍	100～300 ℓ		3回以内						●	
	21	ランマンフロアブル	1,000倍	100～300 ℓ	3 日前	3回以内		●		●			※大豆では使用時期は収穫 7 日前まで
40	レーバスフロアブル	1,500倍	100～300 ℓ	7 日前	3回以内		●		●				

☆イソキサチオンを含む剤（カルホス微粒剤F、ネキリエースK）の総使用回数は5回以内とする。（粉剤及び粉粒剤の播種時の処理は合計1回以内、粉剤及び粉粒剤の定植時は合計1回以内、粉剤の土壌表面散布は1回以内、粒剤の土壌表面株元処理は2回以内）ただし、乾燥秘伝として収穫する場合は、同一成分の総使用回数が2回以内なので注意する。
☆トリフルラリンを含む剤（トレファノサイド粒剤2.5、トレファノサイド乳剤）の総使用回数は2回以内とする。（全面土壌散布は1回以内、畝間土壌散布は1回以内）
☆合成ピレスロイド剤は（アグロスリン乳剤、トレボン粉剤DL、トレボンMC、トレボン乳剤）蚕・魚類に対する毒性が特に強い。また、抵抗性害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
★農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

除草剤使用基準（えだまめ）

	薬 剤 名	RAC	10 a 当 たり 薬 量 ／ 散 布 量	使用時期 ・ 使用方法	使用回数	適用雑草	特 性
土 壌 処 理 剤	トレファノサイド乳剤	3	200～300ml／100ℓ	は種後出芽前全面土壌散布	1 回	1 年生雑草	・ ツユクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。
	トレファノサイド粒剤2.5		4～6 kg／10 a	は種後出芽前全面土壌散布	1 回	1 年生雑草	・ ツユクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。
	クリアターン乳剤	15,3,5	500～800ml／70～100ℓ	は種直後（雑草発生前）全面土壌散布	1 回	1 年生雑草	・ 砂質土壌では被害が出やすいので使用しない。
茎 葉 処 理 剤	ナブ乳剤	1	150～200ml／100～150ℓ	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）（収穫14日前まで）雑草茎葉散布又は全面散布	1 回	1 年生イネ科雑草	・ イネ科作物には被害があるので注意 ・ 遅効性で枯死するまでに7～10日必要 ・ スズメノカタビラ、広葉雑草に効果がない。
	バスタ液剤	10	300～500ml／100～150ℓ	雑草生育期（は種前、は種後出芽前、定植5日前まで）雑草茎葉散布	3 回以内	1 年生雑草	・ 畦間処理の場合は、収穫前日まで作物にかからないように飛散カバーを用いて雑草茎葉散布する。
	ボルトフロアブル	1	200～300ml／100ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3～8葉期)（収穫14日前まで）雑草茎葉散布又は全面散布	1 回	1 年生イネ科雑草	・ 完全に枯死するまで約1週間を要する。 ・ スズメノカタビラ、広葉雑草には効果がない。
	ラウンドアップマックスロード	9	200～500ml／50～100ℓ	耕起前又は出芽前まで（雑草生育期）雑草茎葉散布 収穫前日まで（雑草生育期：畦間処理）雑草茎葉散布	3 回以内 (大豆では2回以内) 2 回以内	合 計 3 回 以 内 1 年生雑草	・ 専用ノズル（ラウンドノズル）を使用し、散布ムラのないようにする。 ・ 展着剤は加用しない。 ・ 散布液が作物へ飛散しないように注意する。 ・ 散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きいほど効果が確実になるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わない。 ・ 処理後1時間以内の降雨は効果を低下させるので注意する。 ・ 処理後、効果の発現に2～7日を要するので、誤って再散布しない。